

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 2 月 26 日

事業所名 みんなで笑顔「木のおうち」児童発達支援・放課後等デイサービス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	・廊下等にも支援スペースが広がっている。	限られたスペースの中で利用者が分かりやすい場所にするためのレイアウトが必要だと思われる。
	2 職員の配置数は適切である	8	0		ぎりぎりの支援だが4月から職員を増員するため、よりよい支援が出来る環境になる。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	2	・車いす用リフトがある。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	・周りのスタッフに話せる環境となっている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	・保護者による評価表と同時にアンケートを行い、業務を改善するために活かしている。 ・面談を行い、保護者の意向を聞いている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	・事業所内の結果をホームページで公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	・毎月外部講師を招き研修を行っている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	1	・標準化されたアセスメントツールを工夫し作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	4		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	3		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	3		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2	・プログラムリーダーを決め、内容に多様性を持たせている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	・同じプログラムでも内容を変えている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	6	2	・リーダーが中心となり作成している。	集団活動はまだまだ行えていないため、週単位でプログラムを考えるなどの工夫を行っている。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	・午前中にミーティングを行い、必要な確認を行う。	
18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	・翌日にミーティングを行っている。		

保護者への説明責任	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	・一人ひとりにあった情報伝達ツールを使っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1	・マニュアルに沿って担当者が説明をおこなっている。	周知徹底の方法が確立されていないため、改善を要する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	4		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0		契約時に保護者より話を伺っている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0		研修を受けてきたものが伝達研修を行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	3		